

健康福祉常任委員会

平成24年11月6～7日 佐賀県佐賀市・福岡県春日市

【視察委員】 委員長 来海 恵子 副委員長 青木 照美
委員 坂本 武人 委員 上田 欣也
委員 後藤 修一

11月6日 佐賀県佐賀市 子育て支援について

佐賀市は面積が431.42km²、人口が約23万7千人です。こども課は乳幼児・幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携を高めるために教育委員会に属して子育て支援係、保育幼稚園係、子育てコーディネート係で組織されています。育楽プロジェクトは市の単独事業で、社会福祉協議会に委託せず子育てコーディネート係が直接行っています。育楽プロジェクトとは、子育て世代の不安を解消し、社会全体で子育てを応援しようというコンセプトの下、行政・マスコミ・企業・地域・学校・保育園・幼稚園・その他関係団体の協力を得ながら、みんなで子育てを行う体制づくりを目指す取り組みです。子育て中の保護者を中心に据えてテーマごとに参加者を募り、楽しくお茶を飲みながら語り合い、そこで出た意見を施策に生かしています。育楽プロジェクトは今年度で終わりますが、参加者がハッピー・ベース・プロジェクトを立ち上げこれからの楽しみです。



佐賀市視察

11月7日 福岡県春日市 地域福祉活動について

春日市は福岡市の南に隣接し、面積14.15km²、人口約11万人です。合志市では安全生活創造事業は社会福祉協議会と民生委員さんを中心になって動いています。春日市は自治会を中心に民生委員と地域福祉推進委員が社会福祉協議会と連携して行っていて、災害マップも自治会でつくり一年ごとに更新しています。災害時要援護者避難支援計画策定事業については、個人情報ネットワークですが、本人の同意のもとに自治会や民生委員と協力して情報収集を行っています。自治会からの希望で、慎重に名簿は提供されているそうです。自治会により温度差があり、35自治会中15自治会が参加しています。また、隣近所で支援者を募り、支援者には必要事項を書き込んだ「支援者しおり」を渡しています。8月現在で、地域支え合いカード登録者320名、支援者347名です。



春日市視察

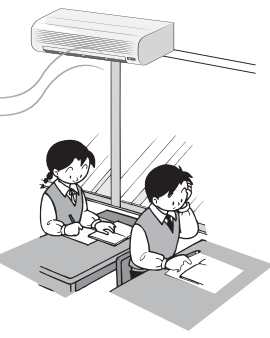
小中学校の全教室に エアコンの設置を！

濱元幸一郎議員



濱元 平成23年の12月議会で、小中学校の全教室に空調設備（エアコン）の設置を求める陳情が4,823名分の署名とともに提出され、議会で採択された。夏に気温が30度を超えれば、教室内はもっと暑い。学校の猛暑対策は待たなしの重要な課題である。エアコンを設置して、子どもたちに快適な学習環境を保障するのが教育行政の務めだ。執行部の受け止めは、現在の学校の状況は、**教育部長** 陳情が採択されたことを重く受け止めている。市内の小中学校の夏場の教室の室温はそれぞれの学校で立地的に若干の差はあるが、夏場の西合志東小学校3階の南側で35度から36度、西合志中学校体育館側の理科室、被服室で34度から36度、西合志南中学校4階で34度が大体夏の室温と聞いている。

濱元 文部科学省の学校環境衛生基準では夏の教室の室温は30度以下が望ましく、25度から28度が最も望ましいとされている。冬は18度から20度。衛生基準を満たすには、エアコン以外の方法はない。一刻も早く設置すべきだ。
市長 おっしゃった話は、私もしっかりと受け止めている。



文教常任委員会

平成24年10月25～26日 福岡県朝倉市・大分県別府市

【視察委員】 委員長 松井美津子 副委員長 尾方 洋直
委員 丸内三千代 委員 吉永 健司
委員 濱元幸一郎

10月25日 福岡県朝倉市 コミュニティスクールについて

朝倉市は、人口56,355人。旧城下町の秋月町は、筑前の小京都と呼ばれ風情あふれるまちでした。近年、人口減少と児童生徒数の減少がみられ、秋月中学校の生徒数は、100名で4クラスでした。平成18年、文科省の「コミュニティスクール推進事業」の指定を受け、取り組みがされてきました。が、秋月中学校ではまず日常化と意識化が大事。そして、キーワードは、校長先生のやる気とリーダーシップが重要であると言われ、元気で朗らかな固定観念にとらわれない、愉快な教頭先生をはじめ、教職員の意識の高さがうかがわれました。重点目標として、夢や希望の実現に向けて、自分の将来を自分で切り開くことのできる子どもの育成、キャリア教育の視点に立った教育活動の充実が掲げられており、学校と地域、保護者、生徒の信頼関係が素晴らしく大変参考に なりました。



秋月中学校視察

10月26日 大分県別府市 総合型地域スポーツクラブについて

平成18年度から19年度に「別府市西区総合型地域スポーツクラブ」として日本体育協会より委託を受け、平成20年度に「にこしんクラブ」として設立されました。クラブ運営の基本方針として、地域住民の意見を取り入れることにより、スポーツ活動だけでなく、文化活動にも力を入れホテルの住む川づくりのためのボランティア活動や盆踊り大会も開催され、健康づくりのための「ストレッチ教室」では、高齢者が外に出ていく回数が増え、ストレッチをしながら人とおしゃべりをすることも多くなり、そのことが体力づくりになり高齢者の健康づくりにつながっているとのことでした。地域住民がスポーツを通じてふれあいを深めるといった目的が達成されました。



別府市視察

待機児童対策も 待たなし！

神田公司議員



神田 現在の待機児童数と来年度の待機児童対策は。
子育て支援課長 今現在の待機児童（保育児童）は、12月の時点で166人。そのうち141人が3歳未満児で11月に須屋で認可外保育所を活用した家庭的保育（保育ママ）事業を始め、10人が入所しており、恵楓園内の「かえでの森こども園」を利用して、25人の入所を決定した。12月からは家庭的保育室を武蔵野台に1カ所開設して、5人の保育を開始した。さらに、来年度は現在、須屋支所の跡地を家庭的保育室にしたい。3歳未満児の15人程度の受け入れを実施したい。これに平成25年4月から既存園の定員を10人増やす予定。既存園の改修等を平成25年度に実施して、平成26年度に40人程度の定員増を予定している。



家庭的保育（保育ママ）が始まった「はっぴいの園」

神田 学童保育（学童クラブ）も就学児健診のときに希望を取っており、驚くべき数字が出ている。西合志東小学校が来年度190人、合志南小学校が来年度150人。厚生労働省の示す適正規模は40人で、西合志東は四つくらいなければならぬ状況。合志南小についても、もう本当に三つ、四つというような状況。学童保育施設の建設は、本当に喫緊の課題である。
健康福祉部長 西合志東小、合志南小の数字は十分把握している。市長から「潤沢にある用地を自由に活用できるような状況ではないので、できる限り教育局との連携を密にして増築も含めて、対策がきっちり取れるような議論を深めろ」と指示もいただいている。できる限り早急に対応は考えている。
神田 もう耐えられない状況になっている。来年度をどのように考えているのか。
健康福祉部長 具体的な計画は持っていない。もう少し教育局等の詰めの中で可能性をさぐりたい。